REPORT 1

その紙おむつで大丈夫！？

適切な福祉用具の選定と個別機能訓練で生活期を支える

特別養護老人ホームささづ苑

上石 哲也 氏

理学療法士、介護福祉士、福祉用具プランナー、おむつフィッター2級、福祉住環境コーディネーター2級、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士、ノーリフトケアコーディネーター、リフトインストラクター上級、シナプソロジーインストラクター

●プロフィール／療養病床にて10年間勤務した後、クリニックにて訪問リハに携わる中で、福祉施設におけるPTの介入の必要性や介護予防に興味を持ち、現職へ。地域包括ケアの視点で、富山県を中心に幅広く活躍中。株式会社はいせつ総合研究所が実施した「第10回むつき庵はいせつケア実践報告会」にて、『適切なおむつの選定と個別機能訓練により生活の質の向上と精神面の活性化につながった一症例について』と題した発表を行い、排泄ケア特別賞を受賞。

›スマートラインを活用した症例

80代 男性

- 要介護5
- 夫婦2人暮らし
- 週2回デイサービスを利用
- CVポートでの栄養管理

既往歴

- 多発性脳梗塞
- アルツハイマー型認知症
- 高血圧
- 塵肺（経鼻より酸素投与）

右上下肢の筋緊張が強く、
他動で関節を動かすと
強い痛みを訴えられる。
発語は少なく意思疎通は困難。

課題

厚いおむつや必要以上のパッドの重ね使い（計3枚）で、下肢がふくらみ、座位時に骨盤後傾、股関節が開排した状態になり、姿勢崩れが発生。拘縮があり、股下におむつを通しにくいことやモレを課題ととらえていた奥様。ご本人も股間部やおしりまわりに違和感を感じている様子で、手を持って行くしぐさが見られた。

スマートフィット テープ止めタイプ

＋

スマートキャッチ パッドタイプ

＋

男性用パッド

＋

リフトを使った座位訓練
（脚分離型スリングシート）

上記の結果、股下のゴワゴワ感が軽減し、股関節の可動域も確保され、さらにモレも軽減した。加えて、リフトを使った座位訓練も取り入れたことで、筋緊張も徐々に緩み、安定した座位姿勢が可能となった。ご本人も以前に比べて違和感が軽減したのか、おむつを気にする素振りが減少。座位になる機会が増えたことで、精神面も活性化され、ちょっとした日常会話ができるほどに発語が聞かれ、尿意や便意にも改善があった。

●セラピスト自身が紙おむつを装着してみてほしい

セラピストは、紙おむつが体の動きに与える影響について注目しないことが多いと感じています。しかし、今回の症例を通して、**紙おむつの選定が生活期の支援にとって非常に重要な項目であると実感しました。**排泄動作、介助だけにとどまらず、姿勢改善やそれによる嚥下への影響、ご本人の精神面の活性化など影響が大きいと考えています。セラピストによる介入で一時的に改善しても、日常生活の中での維持が課題となる中で、「人の体に一番近い福祉用具」の紙おむつだからこそ、その方にあったものを選定することが必要です。私はスマートフィットを装着して、装着感と動きやすさに驚きました。セラピストの皆さんも是非自分自身で紙おむつを装着してみることでさらに視野が広がり、新たな発見があるのではと思います。

●介護度の高い方にこそ使いたい

「動き」に着目した商品と聞くと、歩けるような方を思い浮かべますが、**スマートフィットは重度の方にも適した商品だと思います。**厚みのあるおむつを着用していると、どうしても骨盤が起きず、座位が崩れてしまいます。楽しいイベントもレクリエーションも、座って参加してもらってこそ生活の質の向上が図れると考えていますので、その方の状況をよく見ながら、今後もスマートフィットを活用していきたいと考えています。

●地域包括ケアと排泄介護の課題

今回の症例から、退院後の排泄介護に関して気軽に相談できる窓口が地域にはなく、よく分からないまま紙おむつを選んでいることが課題だと感じました。在宅介護での排泄ケアに困っているご家族や要介護者に適切なトータルケアの提案ができる地域づくりが必要だと考えていますので、自分自身も地道なことからコツコツと活動を続けていきたいと考えています。